

四日市東日本大震災支援の会の 2024 年度の活動方針と配慮すべきこと

2024 年 3 月 持ち回り総会で決定

<活動の背景>

四日市東日本大震災支援の会は、四日市大学の学生・教職員が中心となって 2011 年 4 月 1 日に立ち上げ、四日市看護医療大学・暁中学校高等学校などと協働で運営してきた。東北だけでなく、2011 年 9 月の水害被害を受けた三重県紀宝町、2015 年の関東・東北豪雨では栃木県鹿沼市と茨城県常総市、2016 年の熊本地震で被害を受けた熊本県西原村、2018 年 7 月に西日本を襲った豪雨では岡山県矢掛町、2019 年の令和元年台風 19 号で千曲川が決壊した長野市など、東北以外の災害においても支援活動をしてきた。2020 年より、コロナ禍で活動が制限されたが、その間も何度か東北の支援活動をした。2024 年 1 月に発生した能登半島地震を受け、継続的な多様な支援活動を行っていかうとしている。

<基本的な活動方針>

三重の地域防災に貢献する活動については、2016 年 1 月 17 日に立ち上がった四日市市の機能別消防団の活動を充実させるよう、四日市市消防本部との連携を強化する。また、昨年度に続いて四日市大学で開催される地域防災を総合的に学ぶ講座に参画し、多くの高校生・大学生が防災士の資格を得て災害支援と地域防災に貢献できる人材になることを目指す。

また、国内で発生する大規模災害で被害を受けた地域に対する支援活動は、ボランティアの必要性や安全を考慮した上で派遣の判断をし、実施する。その場合、四日市市社協と連携して災害ボランティア活動を実施し、その後の生活支援については支援の会が中心となって展開していく。

<宮城県東松島市の現状認識と支援活動方針>

東松島市では 2017 年度に野蒜地区の集団移転が完了した。仮設住宅の住民は全員が退去し、仮設住宅は撤去が進んでいる。集団移転先ではコミュニティの形成が進み始めているが、災害公営住宅での独居老人の孤立が心配されている。現地の支援ニーズも大きく変化している。この変化の情報をキャッチし、それに合わせた活動計画を作り上げ、実施する。

<能登半島地震における活動の方針>

2024 年 1 月の能登半島地震を受け、1 月 13 日に先遣隊として輪島市まで調査にでかけた。能登半島地震における支援活動は、中央共同募金会からの助成(第 2 回中長期助成を申請)、チーム四日市からの助成などを受け、現地の社会福祉協議会や NGO と連携して避難所・仮設住宅・災害公営住宅などの支援を中長期的に行ってきた。2025 年以降も、継続的に数年の間は能登半島地震の支援を行っていく。

<今後の活動に関する考え方（被災地での活動）>

支援の会は以下のことに気を配りながら計画をたてる。まず第 1 に、被災地のニーズに関する情報を細かく把握し、適切なタイミング・内容を検討して支援を行う。支援の会では、現地の負担にならない範囲で、できる限り被災地の行政や社協・NGO などと連携することを心掛けたい。第 2 には、自立を妨げないような配慮を行い、支援活動が現地経済と競合しないよう十分な注意をしていきたい。また、交流促進支援などでも、過度な活動によって被災者同士の自発的な日常交流が阻害される可能性があることに留意したい。

<参加費設定のあり方>

2023年での支援の会の現金残高は約130万円で、安定的な会の運営ができています。参加費は、原則として、以下の通りの設定とする。種別としては、中高校生・スタッフ・一般の3段階で設定する。現地で5日、または3回以上の活動実績(宮城などの遠方1日活動は、1回あたり1.5日の計算)があるメンバーは、「スタッフ」として往復交通費に相当する部分を免除、宿泊・食事・入浴など個人に帰属する部分のみ負担する金額を設定する。スタッフは、準備・片付け・活動の指揮などを担うとともに、座席が満席になった場合はスタッフで協議し必要数の座席を確保するため必要人数の参加を辞退する。中高校生参加費は、概ね必要な交通費を定員の70%で頭割りをしたものに、宿泊費や食費などの人数あたりで必要になる金額を足し合わせて設定する。一般参加に関しては、継続的な参加が想定できないため、中高校生参加費とスタッフ参加費の差額の約2.5倍をスタッフ参加費に上乗せした金額とする。

ただし、能登半島地震での支援活動は、距離的に近いこともあり、助成金を受けた結果、入浴と食事にかかる部分のみの自己負担で実施が可能と考え、1人3,000円に設定することとした。

<将来発生する新たな災害への対応>

大学生・高校生が中心になる活動であることを十分に認識し、大規模災害においては、安全の確保を第一に考え、現地の情報をできる限り収集し、派遣の必要性和安全性を検討する。その上で、できるだけ先遣隊の派遣を行って、本隊の活動場所・拠点などを確保し、その後に本隊の派遣を行う。近隣で発生した小規模な災害については、直ちに先遣隊の派遣を行い、安全を確保した上で活動を行う。このような新たな活動については、四日市市社会福祉協議会が予算を確保しており、移動にかかる費用はそこから支出が可能である。また、大規模災害の場合は、中央共同募金会が支援金を集め、ボランティアに助成金を出す仕組みが確立されているため、この資金の情報を入手し、可能であれば申請を行う。

<地域防災への貢献>

防災士を目指す講座を四日市大学で開催し、100名を目標に三重県内の中学生・高校生・大学生を中心に受講してもらう方針である。こうして広がるメンバーは、それぞれの在住・在学する地域において、防災イベントに主体的に参画し、災害時には自分の安全を確保したのちに、避難所や災害ボランティアセンターの運営に貢献していく。四日市市消防に設立された大学生による地域防災に機能を限定した機能別消防団は、その定員枠の増加を目指し、活動を活発化させる。

<活動を後輩たちに引き継ぐには>

支援の会は、大学生が中心となり、東北・熊本などでの災害支援活動で蓄積された経験や、被災地で得た知見を後輩たちに引き継ぎ、中高校生や地域住民にも広め、災害に強いまちづくりに貢献していく。現状では、代表が中心となって活動方針・事業計画をつくっている。今後は、より大学生が主体的に活動に取り組み、会の運営をしていくことが、支援の会の持続可能性を高めることにつながる。

四日市東日本大震災支援の会 2024 年度の事業計画（一部 2025 年度）

2024 年 3 月 持ち回り役員会で決定

■2024 年 4～6 月の事業計画

2024 年 4～5 月は、輪島市内の避難所を中心に炊き出しやサロン活動(足浴&お茶会)を行う。炊き出しは、現地の行政と情報共有しフードロスをできるだけ出さないよう提供していく。またエコノミークラス症候群の予防のため、簡易エコーによる血栓検査なども実施する。

仮設住宅への入居が進むと、コミュニティ再生と孤独死などの災害関連死予防が課題となるため、積極的な見守り活動を行いつつ、足浴&お茶会のサロン活動を展開し、住民同士の共助が機能する自治会の形成を促す。また、看護師や保健師などで、仮設住宅(みなしも含む)の訪問支援も行う。

【移動と活動実施の方法】

現地の連携する NGO であるシャンティの負担軽減のため、できるだけ自家用車などで先発隊を数名送り込み事前の調整や準備にあたる。本隊はマイクロやワゴン車のレンタカーで移動する。

【活動内容とスケジュール】

*2024 年 4 月～6 月：授業開始後は、金曜夜に三重発、途中仮眠、土曜と日曜に活動(土曜夜は現地拠点で宿泊)し、日曜の夜に三重に戻る。4 月～6 月まで 6 回のべ 12 日間の活動を計画。7 月は試験期間になるため活動は休止。

*2024 年 8 月：夏季休暇を利用し、上記活動 2 回に加え、現地の復興に向かうイベントなどのお手伝いなども行う。のべ 6 日間を予定。

*2024 年 9 月～12 月：週末に 8 回のべ 16 日間の活動。

*2025 年 1 月～3 月：1 月は試験期間で活動休止、2～3 月に 3 回程度の活動を行う。

*2025 年 4 月以降：できるだけ新入生に声掛けをし、月に 2 回のペースで仮設住宅のサロンを行う。